

## おかわりで満点笑顔

相原 潤

「おかわりあるけん、言いんさいよ。」

おばあちゃんは、優しい声で言う。ぼくと弟は、目と目で笑って合図した。

家での食事中、ぼくはお母さんに、

「お母さん、おかわりある。」

と聞いた。お母さんは、

「ごめん。今日はもうこれだけ。おばあちゃんだったら絶対、おかわりあるのにねえ。」

と言った。お母さんに言われて気がついた。おばあちゃんの家で

おばあちゃんのごはんを食べていると、おばあちゃんは、必ず、

「おかわりあるけん、言いんさいよ。」

と言ってくれる。一緒にいた弟が、

「おかわりが売り切れた時は、おばあちゃんの食べんさい。つていってくれたりするよ。もう一回追加で作ってくれたこともあるよ。」

と言った。ぼくは、おばあちゃんの家での食事のことを思い浮かべた。お祝いの時、家族がたくさんそろう時、お母さんがいない時、みんなに「ごちそうを食べさせてくれる。それで、みんなの様子を見て、

「おかわりあるけん、言いんさいよ。」

と言ってくれる。

おばあちゃんに言ったことはないけれど、おばあちゃんが料理を作る時、すぐきれいな。と思う。作っている時に近くにい

ると、料理のコツ、おばあちゃんのこだわり、ひみつをこっそり教えてくれる。それを近くで見るのが大好きだ。弟はす直に、

「それ、楽しそう。手伝わせて。」

と言って手伝わせてもらっているけど、ぼくも手伝ったりしてみた。

おじいちゃんは今、大阪で仕事をしている。仕事をするおじいちゃんはかっこいいな。と思う。だけど、おばあちゃんは、おじいちゃんの健康のことをすごく心配している。おじいちゃんは体のためにマラソンをしている。でも一人だったら食事の準備までは大変だ。だからおばあちゃんが一週間に一度、冷たい宅急便で食事を送っている。ぼくは、一度おばあちゃんがおじいちゃんへの荷物を作るところを見た。大きなダンボールいっぱいにごちそうが入っていた。全部手作りのものだった。おばあちゃんは、

「すごいじゃろ。いっぱい食べて元気でおつてもらいたいけんね。」

と言った。ぼくは、箱いっぱいにならんだ食事が宝物に見える。箱を開けるおじいちゃんの姿を想像すると胸がいっぱいになった。

おばあちゃんは、みんなに何を食べさせようか考えるとワクワクするとも言つ。ぼくは、おばあちゃんのおいしい食事を食べられることを今まで以上に大切にしたい。栄養満点、笑顔も満点だ。おばあちゃん本当にありがとう。おばあちゃんが大好きです。